

OIS

大阪府インテリア設計士協会

〒541-0059 大阪市中央区博労町1-6-14
TEL. 06-6262-1488 FAX. 06-6262-1553

URL <http://jp-interior.or.jp/ois>
blog <http://oisblog.exblog.jp>
E-mail ois@jp-interior.or.jp

編集スタッフ

広報部長：仲田
広報部：田原・五代・高尾
加茂・西脇・橋口
事務局：奥田・岡崎

祝・合格
No.90

第52回検定試験報告

第52回インテリア設計士資格
検定試験は2012年7月14日(土)、
15日(日)に実施された。

全国で1・2級あわせて640人
が受験し、494人が合格した。そ
のうち大阪は44人の受験で29
人の合格であった。

2級合格者

大阪樟蔭女子大学

石原	菜穂	穂子
伊藤	礼亜	紀季
金子	出亜	季子
神出	出侑	季子
神出	井侑	恵菜
榮中	田菜	菜月

羽衣国際大学

小栗	正也	也
木下	下乃	乃
新城	田沙	咲
増山	山景	景
森山	山	山
山山	山	山

四天王寺大学短期大学部

浦辺	優希	希
清井	麻椰	椰
近藤	安綾	綾
櫻井	山月	月
中野	野紗	紗
濱向	井沙	沙

大阪芸術大学短期大学部

垣比	呂	来
井田	未沙	沙
安井	井真	真

中央工学校 O S A K A

梅岡	拓	矢
柴田	本佳	菜
吉田	田智	也
京都	田明	弘
建築	田明	弘
大学	柴	郁
学校	沼	郁



恒例ビアパーティー 川風に吹かれて、焼肉三昧



を待ちました。とにかくビールが飲みたい。
早く乾杯してくれ〜って感じで…。

しばらくして、宮後会長の開会の挨拶代わりの乾杯の音頭で「カンパ〜イ」。

本当にビールがうまい。定番のエダマメに続き、つぎつぎ出されるサラダや6種類の焼肉に舌鼓を打ちながらジョッキを傾けていると、いつの間にか陽も落ち、川面を渡る爽やかな風で暑さも和らぎ、一段と調子づくOISの面々。

OIS毎夏恒例のビアパーティーが8月2日(木)、中之島「R・RIVERSIDE GRILL & BEER GARDEN」で開かれました。

川縁のビア・ガーデンでサムギョプサルパーティーです。ちょっとした「京都の川床」気分を味わえるのではないだろうか、私は涼味あふれるこの設営を楽しみに、マイドーム大阪の向いにある我が事務所から歩いて会場へ向かいました。6時を過ぎててもまだまだ陽は高く、蒸し返る暑さで、陰を探しながら歩いても目的地に着いた時は汗まみれでした。

事務局から「時間厳守」のメールがあり、5分前に着いてみると、もう20人近くの人が集まっていました。

各々、扇子や団扇で風をつくり、近くの席の人とおしゃべりしながら開始を待たれています。私も向かいの席やお隣の初対面の人と「暑いですね」「川風ないよね」などと紙きれをうちわ代わりにバタバタあおぎながら、開始



ワイワイガヤガヤとにぎやかな楽しい時間が過ぎていきました。

お開きの後、かぶだちの方々が「場所をかえて飲むぞ〜！」っと。いつものことですが、このかぶだちのパーティーには凄いものを感じます。



(スケッチ&記事・仲田 貴代史)

青年部企画第1-2回

Designer's Bar

OIS

BOURBONとJAZZに酔いしれて

6月1日、初夏の露払いとなった第12回デザイナーズ・バーは、いつもと少し趣向をかえて“バーボンとジャズの饗宴”で開催されました。



榎豊大 藤崎氏

会場となった「コラムデザインセンター」、いつもは真剣な講義やトークで溢れる教室にズラリと並んだバーボンのラベルを眺めながら、株式会社豊大によるLEDを中心とした照明の活用法セミナーで頭を使ったあと、お待ちかねのバー・タイムが始まりました。美味しい料理に歓声があがる中、ジャズがリズムよく響き渡りました。

オシャレな会話とバーボンの香りにジャ



ズの音色がこんなに合うとは、想像以上でした。若い学生さんにとっては聞き慣れないかもしれないジャズですが、古さを感じさせず、むしろ新鮮な響きは、ジャズを身近に感じることでできるいい機会になったのではと思います。

私も、またこんな時間をOISのみなさんと過ごせたらいいなと思いました。

(記・石渡 由華)



沖縄音楽と泡盛 Bar

前回の“バーボンナイト”の好評に味をしめて、今回も「なにかテーマを決めよう」と臨んだ第13回デザイナーズ・バーは、8月31日に同じコラムデザインセンターで行われました。

テーマは“沖縄”、とくればお酒は泡盛です。まずオリオンビールで乾杯の後は、沖縄民謡を中心とした音楽を流し、おつまみも沖縄名物を用意しました。

「天使のはね」と呼ばれる、噛んでも音がしない白い塩せんべいは味が薄く失敗の部類でしたが、局長手づくりの、スパムを使ったゴーヤチャムブルは大好評でした。

泡盛は飲み慣れていないと、度数が高くきついイメージを受けますが、用意されていた5種類の中には飲みやすいものもあり、違和感なく美味しくいただけました。

酔いが回る前に、賛助会員のYKKap(株)から自動車と同じように、リモコンひとつで施錠・

解錠が自由にできるドア用電気錠やエコ内窓などの商品説明をしていただき、たいへん参考になりました。

また、同社ショールーム(大阪梅田阪急ビル20F)の見学会を10月20日(土)に行うことが決まったのも大きな収穫でした。後日案内しますので、ぜひご参加ください。

パーティーの最後にデザートとしてサーターアンタギーが配られました。その中にひとつだけ「辛子入り」があり、「ワッ、辛い」と言った人に景品のシーサー容器入りの泡盛が贈られましたが、辛子の量が少なかったのか、あまり辛くなく拍子抜けの感がありました。たぶん、神様が意地悪を見抜き辛さを抑えてくださったのでしょう。

今回の参加者は23人でしたが、次回はもう少し増えるように、さらに楽しい企画を立てたいと思います。(記・青年部)



YKKap(株) 高木氏(立っている人)



第2回スケッチの会

日本民家集落博物館で

6月10日(日)、2回目のスケッチの会は服部緑地公園内の「日本民家集落博物館」で行われました。

この場所を選んだのには理由(わけ)があり、同博物館内には、北は岩手県「南部の曲家」から南は鹿児島県「奄美大島の高倉」まで12棟の民家が集められており、スケッチをする民家の選択肢が多いこと、また、すべての民家が17~19世紀(江戸時代)に建築され、

日本の住生活の歴史も感じることができるからです。

参加者8人は、最初は全員で「信濃秋山の民家」を描きました。初めて参加した人には講師の渡辺さんが道具の説明、構図のとり方などを丁寧に指導されていました。

下描きは、どこから描くか、どこまで描くのか? コツはいろいろあると思いますが、最初の構図を決めれば、そのあとは実践あるのみです。

水彩画は水をたっぷりと含ませ、重ね塗りをする事で色の強弱をつけ、遠近感も表現できます。事前講習も実施して、特に着色に力を入れて望みましたが、思っているようには描けません。

今回は「なまいる」(絵の具そのもの単色)は避ける、ということが自分の絵をみてわかりました。絵に深みがなく、他の人と比べると全く違うのです。

最初の民家を描き終わると、その後は自由行動で、各々が描きたい民家へ移動しました。私はやはり一番迫力のある「飛騨白川の合掌造」を選びました。

前回の中央公会堂よりも上手に描けたかどうかは微妙ですが、OISのメンバーと青空の下でスケッチを楽しめたことを何より有意義に感じました。終了後は居酒屋に席を移し、反省会という名の飲み会を楽しみました。(記・岡崎 正明)



左から、講師の渡辺さんと吉田くん、長谷川くん



信濃秋山の民家



渡辺さんのスケッチ

パースを描くということ

広畑 直子

パースは設計者とクライアントの重要な橋渡し

某注文住宅のインテリアパースを描かせていただきました。お客様は色々強いこだわりを持たれている方らしく、すべてのプランにおいて、設計者もかなり試行錯誤されていました。

描かせていただいたパースはLDKですが、ダイニングテーブルの大きさから始まり、もちろん椅子も含めてデザインも細かいご要望があり、リビングのソファなど、決まっていない部分の提案にも悩まれていました。

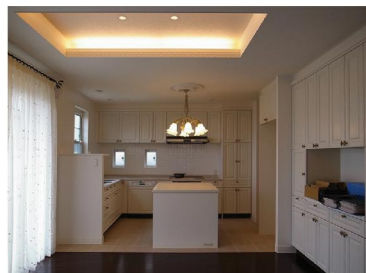
最近では、不況のため予算が先行



してしまい、それなりのプランのなかで収まってしまっている傾向にありますので、これほどのこだわりを持たれている方は少ないように思います。

そのような時に、私はパースで携わらせ

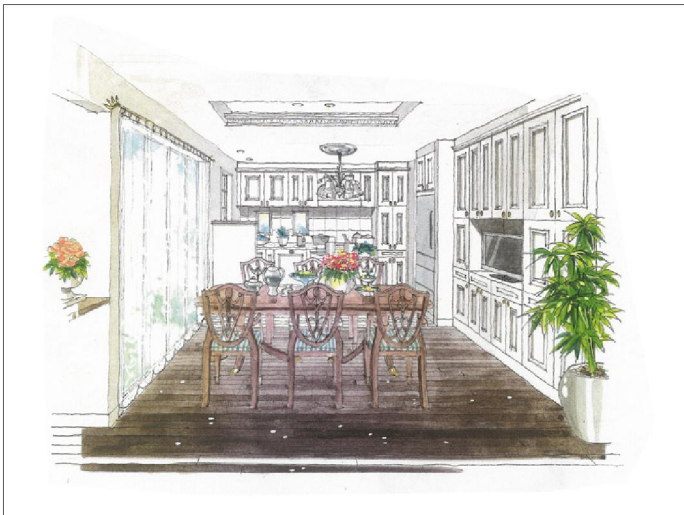
ていただきましたが、とても熱い思



い入れを感じ、私なりに精一杯反映させていただいたつもりです。とてもいい勉強をさせていただきました。

パースを描かせていただくことは、設計者の意思クライアントに伝える重要な役目なので、一番近いかたちに表現させていただけるかが重要かと思っております。

何よりも、最終的にご満足いただいたという報告を受けたとき、責任が果たせた安堵感に包まれ、とても嬉しく思いました。



facebook

「facebook」を利用した交流について

世界的に圧倒的な支持を得、広がりを見せるfacebookを情報交換・発信のツールとして利用することで次世代交流やコミュニティの確保と会員の拡充を図るべく「大阪府インテリア設計士協会」というグループを作成し実験的に運営を開始しております。

facebookのアカウントをお持ちの方はもちろん、まだ始めておられない方も、興味のあるなしに関わらず、まずは試し

にサイトを覗いてみてください。

step 1 : facebookアカウントを作る。

インターネットで「facebook」を検索、右の画面に必要事項を記入し「アカウント登録」をクリックする。

step 2 : 「大阪府インテリア設計士協会」というグループを検索する。

step 3 : グループに参加を申し込む。

以上で完了です。

と~っても簡単に参加できますので、

一緒に協会を盛り上げていきましょう。みなさまの参加を心よりお待ちしております。(橋口 新一郎)



原稿募集

「HASHIRIGAKI」では、UNESCOの「世界遺産」の真似ではありませんが、「私の〇〇遺産」というコーナーを設けることにしました。基本的には、珍しい、変わった、残しておきたい建物や風景が望ましいのですが、「何でもかまへん」ことにしました。たとえば、お宝や蒐集品、自慢のスイーツなども含まれます。サンプルをひとつ提示しますので、ぜひ皆さんの「〇〇遺産」をお寄せ下さい。採用させていただきました作品には記念品を贈呈します。●写真に200~300字程度の説明をつけてください。



謎のオブジェ

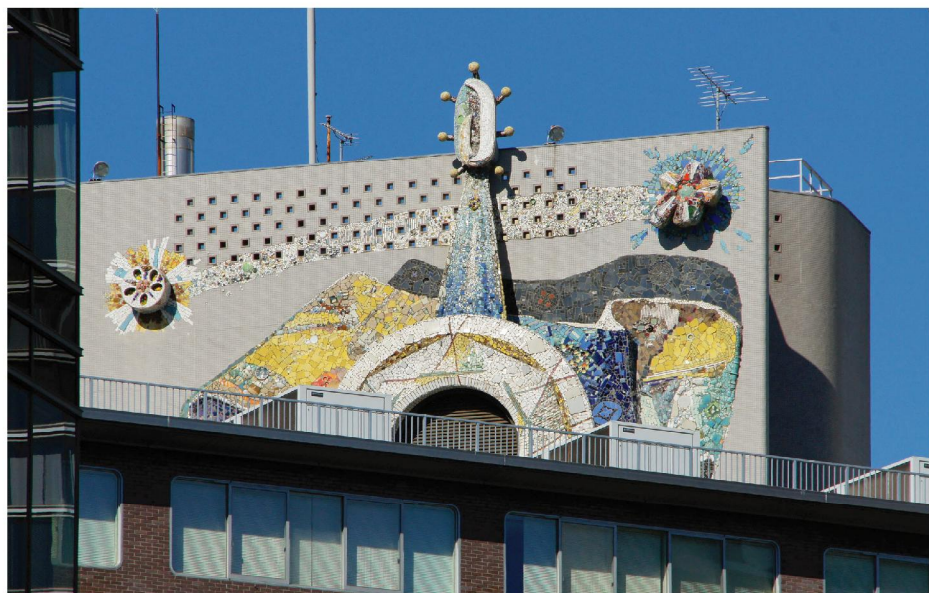
奥田 忠彦

堺筋本町の南西角に建つビルの屋上にあるこのオブジェ、世界的に有名な誰かの作品の真似だろうか。

気になって調べに行ったら、本町ビルディングは既に2007年に売却されており、ビル内は半ば空洞化、テナントのいないフロアにはエレベーターも止まらない状況で、謎のオブジェのことも、調べがつかなかった。

このビル、1階外周壁面にも意味不明の彫刻がなされている。良し悪しは別として、昔の建物には遊びがあったように思われる。

建設当時は騒がれたのかもしれないこのオブジェ、消え去る日はそう遠くないのである。



舞鶴だより

山口 一 芽

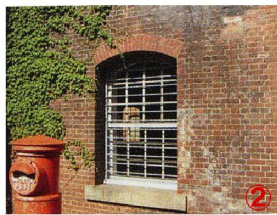


①赤レンガ博物館

明治36年(1903)建設、現存する最古級の鉄骨れんが建造物。国の重要文化財。

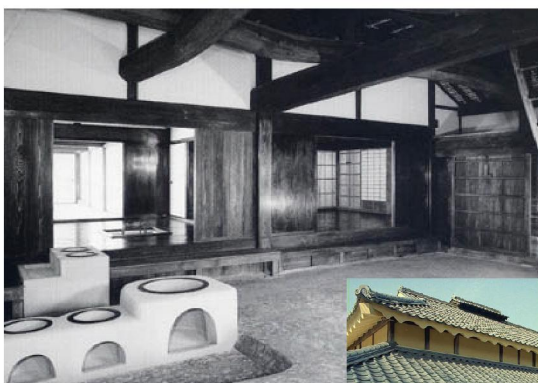
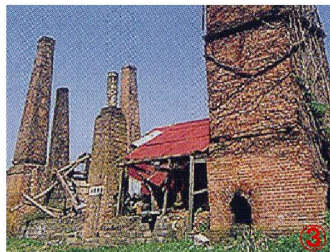
②まいづる智恵蔵

明治35年(1902)建築の赤れんが倉庫。屋根瓦、木枠ガラス窓など、当時の設計図のまま。現在は展示エリアに利用。



③神崎ホフマン窯

れんが製造のために建造された窯。連続焼成が可能な窯は、現在日本で4基しか残っていない貴重な産業遺産。国の登録有形文化財。



④行永家住宅

1849年家相図、文政元年(1818)の木材購入手形から始まり、墨書、大棟鬼瓦、へら書なども現存。瓦葺農家としては丹後地方でも最古で高い質を持った家。

豪壮な土間の梁組に幕末期の発達した大工技術の粋が見られる。住宅平面の発達段階を知る上で重要な、発展民間型民家の代表例。



大阪とは環境、気候、文化、スピード、情報量など様々な違いを感じつつも、面白い発見が尽きない舞鶴。まだ舞鶴在住1年生の私ではありますが、実際に行ってみたくつかの「ノスタルジックな見どころスポット」をごく簡単にご紹介致します。



⑤三上家住宅

これは宮津に存在するが、豪商の暮らしを伝える江戸時代後期の華麗な迎賓施設、豪壮な主家。町屋遺構としては大規模部類、徹底した防火構造も珍しい。京都府指定名勝「三上家庭園」他、構造から内装材、間取り、小物、酒造施設に至るまで見どころは山のように。どれもこれも必見の価値はある。国の重要文化財。



⑥大庄屋上野家

江戸時代後期の茅葺民家。土間、オクドサン、ロクダイは丹後型の特徴的な炊事施設。書院庭園を眺めつつ田舎料理が座敷で気軽に食せる。農業体験や米粉パン作り、そば打ち体験など田舎ならではの楽しい企画も多く経験できる。



⑦五老スカイタワー

「近畿百景第1位」に選ばれたパノラマビューは圧巻。リアス式海岸が眼下に美しく広がる。一定の時期に見られる「雲海」は言葉を無くすほどの荘厳さ。



⑧金剛院

平安時代初頭に開創された重要文化財。三重塔や紅葉、雪景色など四季折々の自然とのバランスは最高に美しい。



⑨田辺城

細川幽斎、細川ガラシャ夫人ゆかりの田辺籠城や古今伝授された城。※我が家のすぐ裏です。

まだまだ舞鶴近辺の宮津や福知山にも見どころは沢山あります。舞鶴へ来られた際は、我が家にもゆっくりどうぞ…。